

Keio University Library





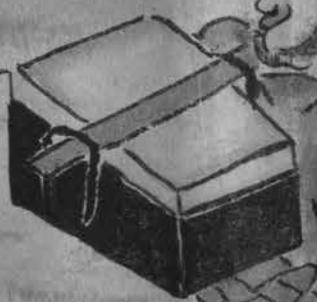
女郎のうち波まちとひて遙よかくやう  
ひつともひ法師はりごとこれい、波れて  
手手にじるるを妨と通じいわきうきりぬ







山中行路  
夜の月夜  
月夜の山中  
行路の山中  
月夜の月夜  
月夜の月夜



山中行路  
夜の月夜  
月夜の山中  
行路の山中  
月夜の月夜  
月夜の月夜

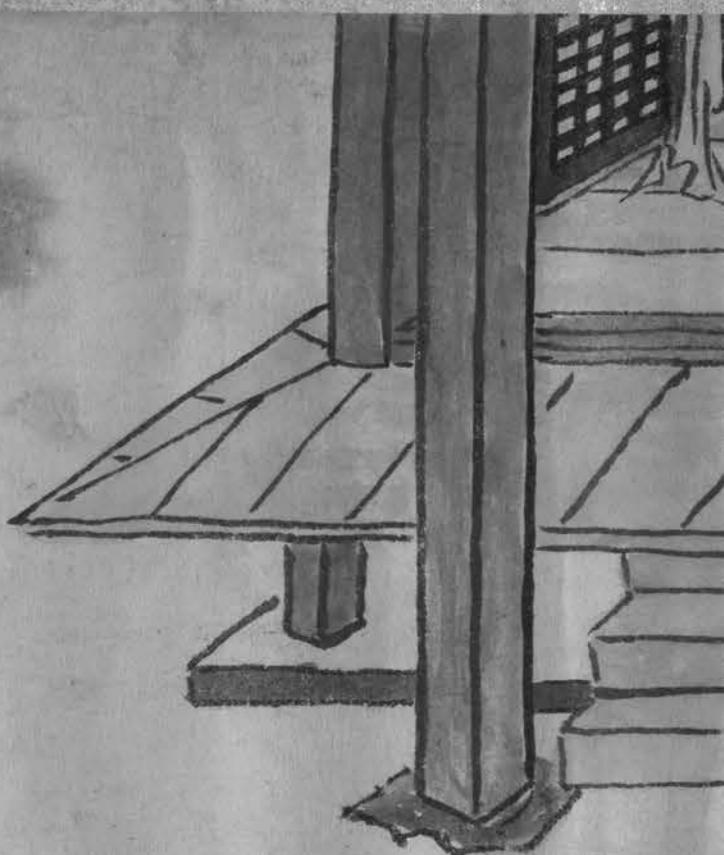






さうすまよまくさう

さうすまよまくさう



人たゞいひかくそえしれはれ  
星をとゆくへり。おのくをゆくの  
事。おひゆとくらむ。おひやんみとくらむ。  
今がくはゆよ。まようよ。南せんざう  
うあーだまくらまくら。と。まようの心よ。

物

欲知過去圖見其現生果  
欲知未來果見其現在圖

まよよよよよよよよ  
りんのふうううれえ  
中じゆゆゆゆゆ



天國

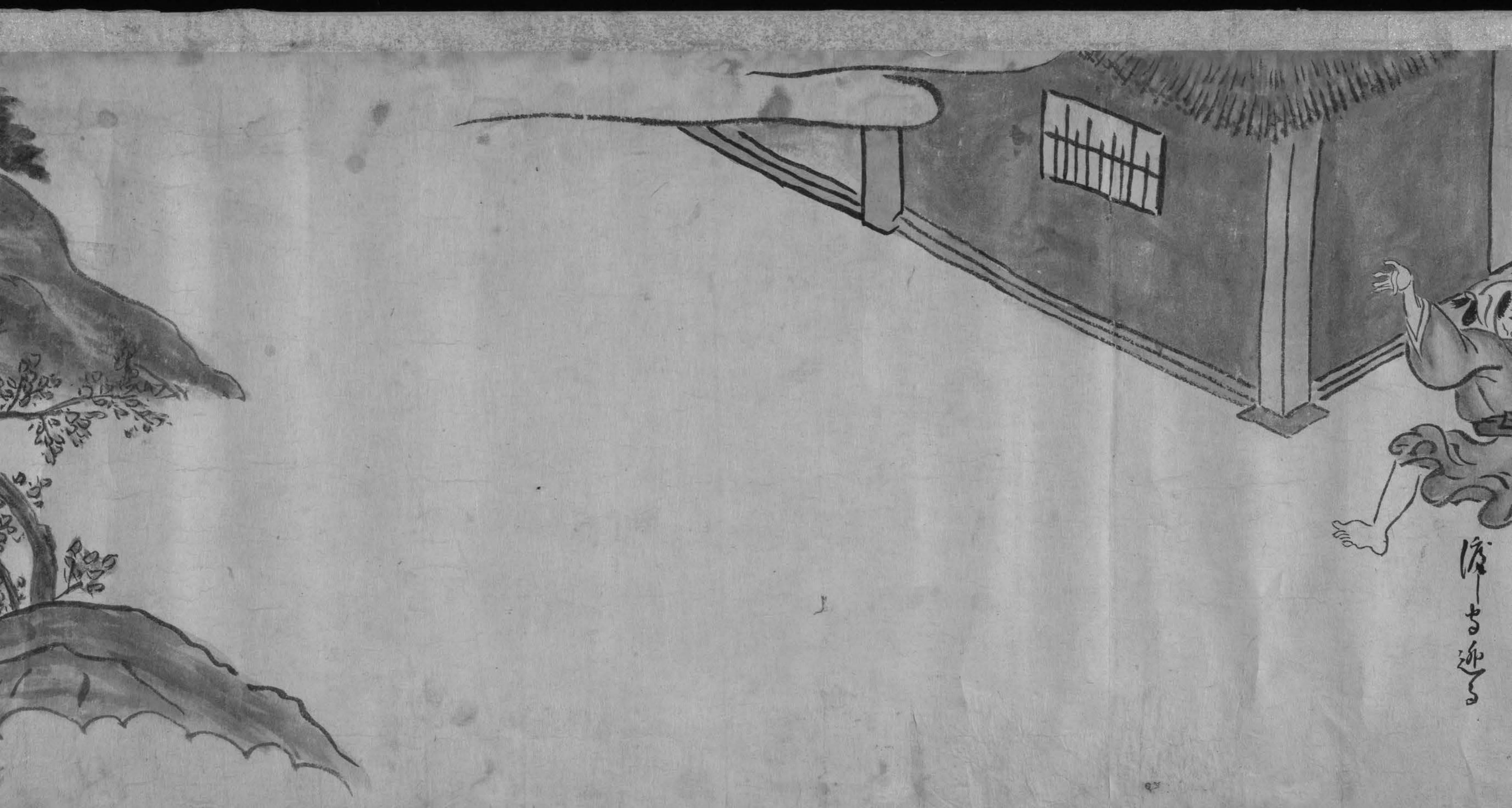




女一筋かくまく  
わらじもとさきま  
奇ひぬく一筋の  
毒地と御ゆゆくと渡りに來ま  
うてたづねけ

落ちる











まこと、この事で生の際  
かと院ノ一女を乳くじり  
にふとぞ思ひ  
いはせ事の事とすを  
集うておとづれをすとぞ思ひ

汝の女の娘女と  
かて遊ばり  
あそぶと  
かくしてくる

まことへの事で生の際  
かと泥ワーセセ化く  
およきを

い聲事行福の事、主にモ被  
集うるもとまどひをすく

主ふ

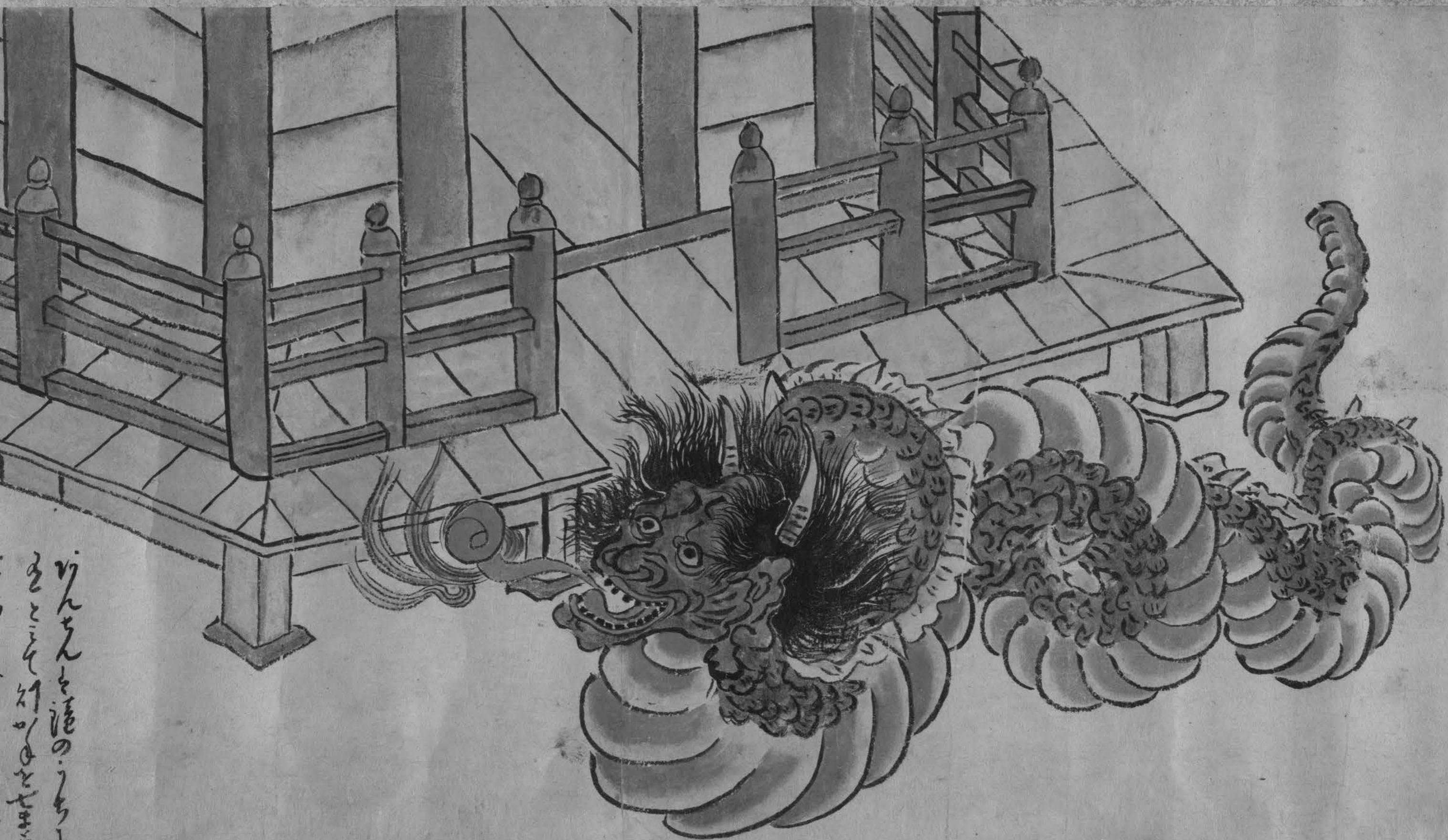
ほんまにあがれども経一作  
くつまうの事だらうと語どもやられ

おちすととこく  
よそと語りぢて  
りやまらま



院事の間とゆめ事アリ  
りんさんぎきひとゆき

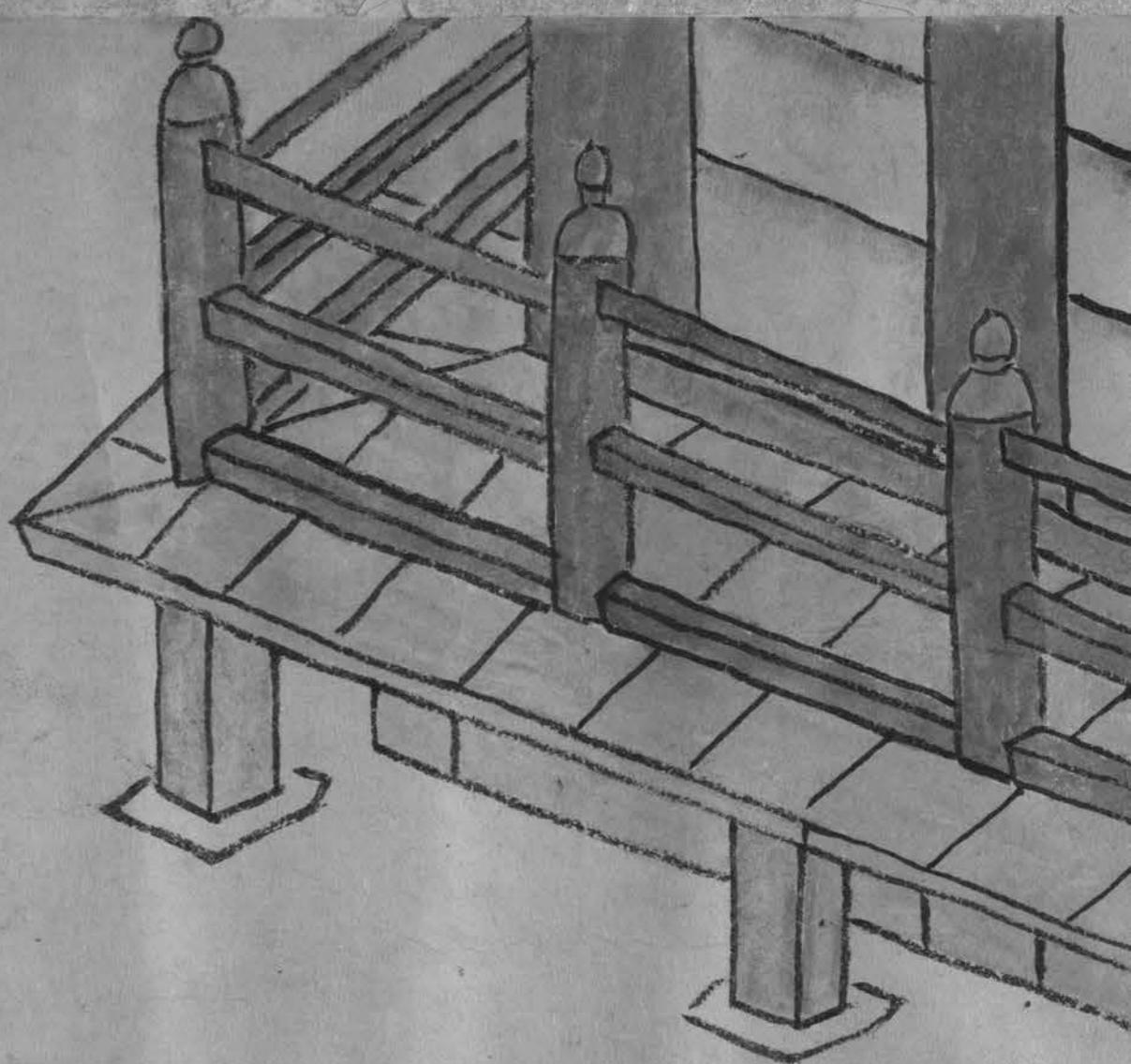




院の内にゆきの  
りんさんとおひと

りんさんとおひと  
とくとくのとき

辛宿うちまきて  
詮とひてこれぞ  
りんえんとほのと  
ぬかへらじよそ  
ぬうきと辛宿  
ぬくふと辛宿



りんえんとほのと  
をとそとけいゆとせま  
まくアラズとく玉尾と  
ヒテシカとあたをき  
さとをひねとわいり  
二麻子をあひるせ  
人足死

幸経らむまで  
詠とり生れんを  
うんえんとほのとく

成ふらじうそも  
詠うと幸経  
かとふるまゆ  
書と名洞と流す

南島とゆく



・後経の肉ふねと小蛇がうまで  
・今は魚浦おひれて鰐乃  
・とゆく秋文く秋の年肉ふね  
・とゆくあまとシた跡す三階利酒

主後御衣の内小松と小蛇をうなでて  
テテテと今が通御されて御に乃  
有りと御文くおおき今之内大雲間  
と御じくぢぬすとソタ吹よ三階井口  
御ごろくとせだたまめの御の御室徳  
喜とゆ一吹と佛果とほんすと  
まゆのうちとおとおと

是ふ御子  
幸信寫り  
御室徳喜と  
ゆうり



主後又を宿の  
着うおとおと  
あまの御とお  
らさんと見て  
たまるとおと  
のねこゆうれう

後又を宿の  
着う妙衣を  
あらむ脛をあ  
らせんとまで  
たゞるとき此  
の心にゆきへり  
うりてよモス  
服とこそりて  
うりてよモス  
生ズ者元始  
也礼松とよす  
ことくふ去りぬ  
まえぬ



一葉法のまえ  
ソリカサガリ  
名カミナリナ

正直捨方便  
但說無上道

